

客足が戻りつつある道の駅

コロナ禍が続き、外出自粛傾向で人出が減る中で、身近な「道の駅」では、比較的早く客足が戻ってきたようだ。日常の買い物利用で、ちょっとしたお出かけ気分を味わえることも理由のひとつだろう。

全国道の駅連絡会が9月、全国1180カ所の道の駅を対象にコロナ禍による経営実態調査を行った。回答があった585カ所のうち、約6割が前年の7割以上の来場者数まで回復。特に周辺の住民や個人・少人数グループの来場者が回復傾向にあるという。検温器や消毒液、レジの飛沫（ひまつ）防止シート設置などの感染対策をはじめ、「密」を避けたイベントやキャッシュレス決済の導入検討など、各駅が知恵を絞り工夫を凝らして、来場客の確保を図っている。

道の駅といえば、地元生産者による新鮮な野菜や果物など、産直品の豊富な品ぞろえが大きな魅力のひとつ。県内にも18カ所の道の駅がある。津市の「道の駅かわげ」は、観光客やレストラン利用は減少したが、地元のリピーター客の利用は多く、物販の売り上げは維持できているという。

今年も残すところわずかとなった。年末年始の休暇には、近くの道の駅へ足を運び、地元食材を手取ることで、地域の魅力を再確認してはどうだろう。

(コンサルティング事業部 PPP/PFI グループ 主任研究員 小林 ゆかり)

朝日新聞「三重のけいざい ひと息コラム」 2020年12月21日